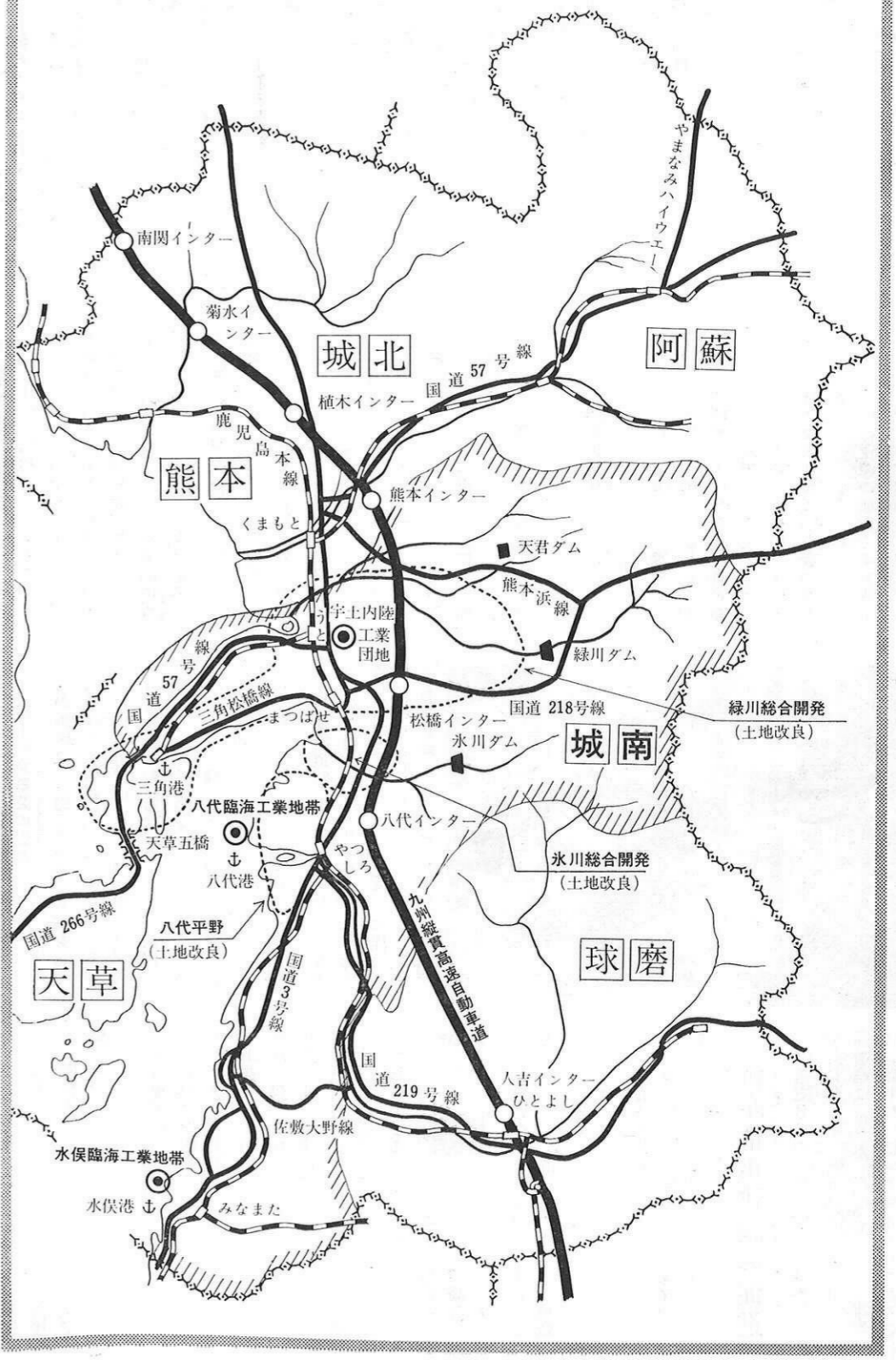


## 城南地区の主要開発図



### 緑川総合開発の推進

この地区は、国道三号線を軸にして、同五七号線、同二一八号線ならびに、これらに連絡する道路網による交通の要衝であるが、今後さらに九州縦貫高速自動車道が地区を縦断し、松橋インターチェンジの建設などにより、ますます重要性を高めるものと考えられる。

この地区は、陸上交通の要衝であるとともに、この地区および熊本地区の海の門戸として重要港湾三角港を有する。三角は、国際観光ルートの一環として、今秋完成する天草五橋の第一橋地点であり、観光の発展も期待されるが、港湾施設についても、貿易観光港として整備をはかるほか、木材木製品工業の立地等と関連し、工業関連港としても所要の整備をはかる。

鉄道については、鹿児島本線の複線化、電化を促進する。この外、新産都市建設計画に基づいて、産業基盤施設、生活環境施設、都市施設の整備をはかるものとする。

この地区は、緑川水系の水利によって開けた地区であるが、毎年相当な洪水被害を受けており、治水の抜本的対策として、砥用町花定野地点に多目的ダムを建設して洪水を調節し、下流の河川改修と相まって、水害の防除軽減をはかり、あわせて灌漑、発電、上水道など地域的な経済開発を行なうものである。

### 農業の近代化

水稲を農業所得の基盤として、適地適作に基づき、宇土半島部など果樹の大集団産地の造成による果樹の振興と畜産の主産地形成と集団化、多頭飼育の普及、協業および販売面の共同化による畜産振興をはかるとともに、そ菜の集団産地化を促進する。

また、農道、樹園地造成、区画整理、用排水路の設置等の整備につとめるが、特に緑川総合開発に伴う農業利水による土地生産性の向上をはかる。

なお、緑川総合開発において利水計画、特に農業計画の早期確立が必要である。

### 上益城

この地区は、県計画の地域区分によれば、振興地域および

### 緑川総合開発

緑川が山間部より平坦部に展開する甲佐地点における、年平均河川流量は約九億立方尺、これより下流で利用されている水量は年平均約八千万立方尺で全体に対して利用率は九割前後である。

### 洪水調節と電力開発

この利用率をやや上まわること成功すれば、従来の本川沿は勿論、広域な水利開発が可能になる。そのためには上流部にダムを建設して、このダムで出水時の「馬鹿水」を一時貯溜し、河川の自流が少ない時期には貯溜水を計画的に放流して自流の不足分を補給することによって、渇水時の河川流量を増加させることができる。

### 交通施設の整備

緑川ダムは多目的ダムであって四十一年度より建設省の直轄事業として着工される運びになったが、ダムの目的は治水、発電、農業、上水道に利用することになる。開発地域に新産地域一村を含んでいる。この地区は、その地理的条件、交通条件等の制約から開発の遅れがみられたが、熊本地区の東部発展、九州縦貫高速自動車道の建設など関連して新しい開発の可能性も生まれてきており、たとえ御船町には繊維工場の進出がみられる。

幹線道路は、国道二一八号線、主要地方道熊本浜線であるが、国道二一八号線は、国道三号線松橋町から分岐し、砥用町、矢部町、蘇陽町を経て延岡市に至る本県中央部の幹線道路であり、熊本浜線は熊本市周辺道路の一環をなしている。また、六嘉秋津新町線は、新県庁に通ずる最短道路であるので、これらの整備を促進する。

### 点

計画内容は治水として、ダム地点における洪水量二千八百立方尺/秒調節して下流部の洪水を防禦する。またダムの落差を利用して県営の水力発電所(緑川第一発電所)が建設されるが、最大出力約三万瓩で、これは県がいままでに開発した市房、藤本発電所を加算したものに匹敵する大型発電所が予定されている。

「水」は、鶴瀬堰上流部に合口堰を新設し緑川本筋の水田二千二〇〇畝の用水改良を優先し、さらに左岸水路より揚水して新規五千五〇〇畝の用水補給と果樹かんがい利用し、その一部の用水は上水道に利用することによって、現在県下でもっとも水道普及率の悪い本地域(三〇%)を全国平均並に引上げようというもの。